

家庭教育通信

1年生になったら 4

第64号 平成31年1月11日発行

～「読む」喜び～

絵本の読み聞かせが大好きなわが子。このまま本好きでいてほしいけど、スーパーの入口でママの買い物を待っている小学生は、みんなスマホやゲームで遊んでいる。あぁなってはほしくないけど。

どうしてこどもは絵本の読み聞かせが好きなのでしょう。「絵がきれいだから」、「物語がおもしろいから」、「親の声を聞くと安心するから」。

答えはこどもの数だけありますが、その根底にあるのは、親が絵本を通して「こどもに心を向けている」ということです。例えば、親がスマホやテレビを見ながらうわの空で読み聞かせても、なかなかこどもは絵本の世界に入り込めないでしょう。こどもが安心できる拠り所になるべき親が、「心ここに在らず」の状態向き合うと、こどもは不安な気持ちになるものです。

このように読み聞かせの喜びは、単に読んでもらえる喜びだけではなく、大好きな親と「一緒に読む」喜びなのです。ぜひ、小学校に入る前、まだ自分では読めない時期の「一緒に読む」喜びを大切にしてください。

「一緒に読む」ということ

家庭でも保育園でも、大人のひざの上に乗って本を読むことは、こどもの心を満たしていきます。一対一の個別の関わり合いは、自分しかかけがえのない大切な存在であることを、こどもに伝えることとなります。ぜひ、こどもと一緒に絵本コーナーがある書店や図書館に足を運んでみてください。そこには様々なメッセージを持った魅力的な本が置いてあります。こどもたちはついつい手に取って見てしまうはずですが、そして、「読んで」とお願いしてきたら、ぜひ一緒に読んであげてください。

こどもは絵本を読むことを好きになれば、いずれ読み書きに興味を持ち、絵本から図鑑や児童書へ関心を広げ、学校や図書室で本を手にする機会も増えるものです。こどもの「読むことは楽しい」という心情や、「読んでみたい!」という意欲を大切に、親子で「一緒に読む」ことを楽しんでほしいと思います。